

「亀城公園開設80周年記念」 思い、出俳句・川柳コンクール入選作品

問 公園緑地課(☎62-1023)

亀城公園は、刈谷市初の都市公園として昭和12年に開設し、平成29年に80周年を迎えました。これを記念し、亀城公園の思い出をテーマにした俳句・川柳を募集しました。

その結果、俳句の部においては143作品、川柳の部においては112作品、子どもの部においては329作品をご応募いただきました。審査の結果は以下のとおりです。たくさんのご応募ありがとうございました。

俳句の部	
最優秀賞	姫様の ように育てと椿植う 神谷 幸子
優秀賞	城濠の 助走の 長く 鴨飛べり 杉浦 守 初陣の 勝成の こえか 百舌猛る 松尾崎 明美 椿咲く 裏径が 好き 十朋亭 富田 みな子
入選	秋深し 城に於大の 物語 山下みどり 五歳児の まなかひ 過ぎる 花吹雪 三木 裕子 世々を 経て 変らぬ 園の 冬麗 石原 愛子 春着きて ペダルで 揃う 神の園 神谷 智恵子 桜咲く 十朋亭で クラス会 三浦 明人 写生会 桜に 集う まめ画伯 長谷川 啓子 葉桜も 愛でる 亀城の 赤い橋 佐々木 真純 文字太き 奎堂歌碑や 天高し 神谷 正子 晩秋の 亀城に 映える 夕日かな 中村 佳子 一日中 桜の池を 写生して 清水 みな子 気兼ねなく ギター練習 園うらら 近藤 欣子 弁当を 広げて みれば 桜吹雪 近藤 大河 車座に 恩師と 愛でた 桜かな 中村 幸 春の月 祖母明治より 亀城の地 久米 令子 そつと手をつないだ 肩に 花吹雪 塚本 吉英 花人の ちらほら 集ふ 屋台あり 野中 ひろみ

川柳の部	
最優秀賞	豆剣士 亀城に 響く 面小手胴 立花 いく
優秀賞	花見会 刈谷小唄が 積む 絆 青木 美代子 揺るぎない 誘いさ 桜 亀城の 都 加藤 節子 亀城の 森ばくに 潤い くれました 宮田 喜代二
入選	初めての 遠足 亀城で にぎり飯 清水 幸平 花びらが 風にはららはら つなぐ 手に 江坂すみ江 深谷 勲 ワツ凄 い 佐吉翁の 像に 桜吹雪 板本 伊佐美 春来れば 勝成偲ぶ 花見酒 佐原 典子 桜咲く 我が 人生の 曲り角 野口 史子 吾子遊ぶ 亀城の フォトは セピア色 村井 修治 追いかける 舞う 花びら 子とともに 福島 雅代 初恋は 亀城公園 花の中 高須 昭子 子の 成長 桜とともに アルバムに 神谷 肇子 凜として 手離した 石城守る 田中 教利 春爛熳 視界一杯 城の 跡 木村 光子 遠足は 亀城公園 ちようど いい 三木 裕子 公園の ベンチに ふたり 夕あかり 中斎 ゆうこ 亡き母に 抱っこされたる 花の下 笠松 信子 きこえますか？ 琴ひきの 松風に のり 西家 洋治 亀城跡 殿も 愛でたか 花吹雪き

子どもの部	
最優秀賞	美しい 桜とクジヤクが 開く 春 加藤 千晶
優秀賞	かくれんぼ いけの中には かめのかお 小畑 蓮小一年 お花見は みんなの 笑顔も 咲くんだよ 太田 菜月 桜 散る 秘密基地に ますます 君に 木村 明日香
入選	かめの いけババとは したたな つのあき 須本 結惟 かつちゆうで 歩く 気分は ぶしようたい 山内 さ歩 公園に 春夏秋冬 笑顔 咲く 荒木 竜之将 春来たる 桜を つつす 水鏡 後藤 未来 さくらさく おとなは はなみ ぼくやたい 小畑 蓮小一年 さくらさく ころも えがお ねんせい 双葉 小一年 公園は 思い 出た たちが おどつてる にのみやそう 桜舞う 新しき 友と 公園へ 前田 紘太郎 じいちゃんのかんれき 祝の 桜坂 福宜 田大 手作りの カッチュー まいどい 大行進 木原 世理菜 そよ風と 桜のもとで お弁当 平井 遙 赤い橋 緑の中で 光つてる 小野原 悠介 落ち葉 拾い 気づいた 時には 手に ミミズ 三浦 光桜 桜の木 囲む 家族の 笑顔 咲く 遠藤 麻菜 亡き 祖母と 共に 見上げた 桜の木 中村 葉音 提灯が 照らす 桜と 咲く 笑顔 内野 真子

※学校・学年は応募当時のものです。